



「グローバル通信 NO.7」で「スーパーグローバル大学」を紹介しました。その際、近く文科省から教育改革に関する答申が発表されるとお知らせしました。そして、昨年12月22日に、

新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた
高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体改革について
～ すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために ～

という標題の答申が発表されました。

この答申では、義務教育の段階で子供達に育むべき力を、「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」、それらを総合した力である「生きる力」と規定しています。要は、かつての「詰め込み」「ゆとり」という二項対立から脱却し、「^①基礎的な知識及び技能を身につけ、これらを活用して^②課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」「^③主体的に学習に取り組む態度」を身につけさせる。さらに、その成果を高等学校及び大学教育にもつなげ、一人ひとりに育まれた力を発展向上させようというのです。(①②③=学力の三要素)

そこで問題になるのが、小・中学校に比べ高等学校においては、知識伝達型の授業に留まるという傾向です。この傾向の先にあるのが、一斉かつ画一的に実施され、あらかじめ設定された正答に関する知識の再生を一点刻みに問うという大学入試だということです。現行の大学入試は、高等学校までに積み上げてきた多様な経験や能力を度外視しているというわけです。つまり現行の大学入試は、これからの大学教育で学ぶために必要な力を評価するものとなっていないことに問題があるわけです。

こうしたことを踏まえ、高等学校教育、大学教育を通じて育むべき「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」を次のように規定します。

①豊かな人間性

高等学校教育を通じて、国家及び社会の責任ある形成者として必要な教養と行動規範を身に付けること。大学においては、それを更に発展・向上させるとともに、国、地域社会国際社会等においてそれぞれの立場で主体的に活動する力を鍛錬すること。

②健康・体力

高等学校教育を通じて、社会で自立して活動するために必要な健康・体力を養うとともに、自己管理等の方法を身に付けること。大学においては、それを更に発展・向上させるとともに、社会的役割を果たすために必要な肉体的、精神的な能力を鍛錬すること。

③確かな学力

学力の三要素を、社会で自立して活動していくために必要な力という観点から据え直し高等学校教育を通じて (i) これからの時代に社会で生きていくために必要な、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性)」を養うこと、(ii) その基盤となる「知識・技能」を習得させること。大学においては、それを更に発展・向上させるとともに、これらを総合した学力を鍛錬すること。

また、グローバル化を鑑みて、国際共通語である英語の四技能(読むこと・聞くこと・書くこと・話すこと)の能力を身に付けることと(グローバル通信第7号参照)、日本の伝統文化に関する深い理解と異文化の理解と交流ということも謳っています。

このような観点から、日本の教育改革は進められていくわけですが、直近の問題として、大学入試はどのように変わっていくのでしょうか。「大学入試センター試験」に変わる「新テスト」の概要が発表されましたので、紹介しましょう。

総称	学力評価のための新たなテスト (仮称)	
実施主体	大学入試センターを、「学力評価のための新たなテスト (仮称)」の実施・方法開発や評価に関する方法開発などの支援を一体的に行う組織に抜本的に改組。	
個別名称	高等学校基礎学力テスト (仮称)	大学入学希望者学力評価テスト (仮称)
目的・活用方策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が、自らの高等学校教育における学習の達成度の把握及び自らの学力を客観的に提示することができるようにし、それらを通じて生徒の学習意欲の喚起、学習の改善を図る。 <上記以外の活用方策> ○結果を高等学校での指導改善にも生かす ○進学時や就職時に基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いることも可能とする。 ※進学時の活用は、調査書にその結果を記入するなど、高等学校段階の学習成果把握のための参考資料の一部として使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入学希望者が、これからの大学教育を受けるために必要な能力について把握する。 「確かな学力」のうち「知識・技能」を単独で評価するのではなく、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力 (「思考力・判断力・表現力」)を中心に評価。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ○希望参加型 ※できるだけ多くの生徒が参加することを可能とするための方策を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入学希望者 ※大学で学ぶ力を確認したい者は、社会人等を含め、誰でも受験可能。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○実施当初は「国語総合」「数学Ⅰ」「世界史」「現代社会」「物理基礎」「コミュニケーション英語Ⅰ」等の高校の必修科目を想定 (選択受験も可能)。 ○高等学校で育成すべき「確かな学力」を踏まえ、「思考力・判断力・表現力」を評価する問題を含めるが、学力の基礎となる知識・技能の質と量を確保する観点から、特に「知識・技能」の確実な習得を重視。 ※高難度から低難度まで広範囲の難易度。 ○各学校・生徒に対し、成績を段階で表示 ※各自の正答率等も併せて表示 	<ul style="list-style-type: none"> ○「教科型」に加えて、教科・科目の枠を超えた思考力・判断力・表現力を評価するため、「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせて出題。 ※将来は「合教科・科目型」「総合型」のみによる「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の総合的な評価を目指す。 ※広範囲の難易度。特に、選抜性の高い大学が入学希望者の評価の一部として十分活用できる水準の高難易度の出題を含む。 ○大学及び大学入学希望者に対し、段階別表示による成績提供
解答方式	○多肢選択方式が原則、記述式導入を目指す。	○多肢選択方式だけでなく、記述式を導入。
検討体制	○CBTの導入や両テストの難易度・範囲の在り方、問題の蓄積方法、作問の方法、記述式問題の導入方法、成績表示の具体的な在り方等について一体的に検討。	
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ○在学中に複数回 (例えば年間2回程度) 高校2・3年での受験を可能とする。 ○実施時期は、夏～秋を基本として、学校現場の意見を聴取しながら検討。 ○CBT方式での実施を前提に開発を行う。 ○英語等については、民間の資格・検定試験も積極的に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年複数回実施。 ○実施回数や実施時期は、入学希望者が自ら考え自ら挑戦することを第一義とした上で、高校教育への影響を考慮しつつ、高校・大学関係者を含めて協議。 ○CBT方式での実施を前提に開発を行う。 ○特に英語は、四技能を総合的に評価できる問題の出題や民間の資格・検定試験を活用。 ※他の教科・科目や「合教科・科目型」「総合型」についても、民間の資格・検定試験の開発・活用も見据えて検討。
作問のイメージ	全国学力・学習状況調査のA問題(主として知識に関する問題)及びB問題(主として活用に関する問題)の高校教育レベルの問題を想定	知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を表現するための力を評価する、PISA型の問題を想定

さて、今後の教育改革の日程の概略は以下のようになります。

下記学年の入試年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
来年度相当学年	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3
高	学習指導要領改訂 ― 答申 ― 告示 - 周知徹底 - 教科書作成・検定・採択 ― 年次進行で実施 ―→									
校	基礎学力テスト(仮称) ―― プレテスト ―― 新テスト導入 ――→ 新学習指導要領に対応									
大	学力評価テスト(仮称) ―― プレテスト ―― 新テスト導入 ――→									
学	個別選抜 大学が個別に検討し、可能なものから実施 ――→ 新テストを活用し、より多角的な評価を実施									

「地球村への10のステップ」プログラム決定

新しい教育の波についてはご理解いただけたでしょうか。「学力の三要素」をいかに身に付けていくかということが、これからの世の中を生き、世界に出て行くには必要不可欠であるということです。そして、海城学園が今取り組もうとしている「地球村への10のステップ」が、まさにそれに答えるものなのです。

前号までの紹介では、プログラムの中身が今ひとつ分かりにくかったかも知れません。今回詳細なプログラムが完成しましたので紹介致します。中学1年生から高校2年生まで参加は可能です。まだ申し込みは間に合いますので、是非参加して下さい。既に申し込んでいる方には、「本申し込み」について別途ご連絡致します。新たに申し込む方は、2月18日までに申し込み下さい。申し込みの書式は、「クラス・番号・氏名」が分かるようにして下さい。みんなでチャレンジしましょう。

※なお、本プログラムはすべて日本語で実施されますので、ご安心下さい。

プログラム概要

3月21日(土)

9時頃学校出発

11時30分頃大原学園富士宮ビバークラブ到着

13時30分からプログラム開始

挨拶、自己紹介

<地球村への10のステップ>についての説明

I. イントロ: グローバル時代を生きる

- ・グローバル度について
- ・PPT「世界の中の日本」
- ・グローバル時代とは?
- ・グローバル化の定義
- ・グローバルマインドセットとコミュニケーション
- ・宇宙飛行士の体験

II. 地球の大きさを測った男

- ・飛行記録のつけ方
- ・好奇心が人生を切りひらく
- ・情報収集と分析の重要性
- ・学習方法の比較: 古代ギリシャ対現代日本
- ・3つのヒントによるひらめきで、地球の円周を測る
- ・課題の設定とひらめきを起こす環境づくり

III. 文化が違えば、ルールも違う

- ・<文化の世界地図>とは?

- ・3つの文化コードとそのミックスで多様な人々の価値観を理解
- ・日本固有の価値とオリジナリティ
- ・ロールプレー
- ・振り返り

3月22日(日)

スピーチの準備

- ・テーマ選び
- ・スピーチツールの活用

IV. 絹の道、じゃんけんの旅

- ・絹の道: 中世対現代対未来のユーラシア
- ・生命かけた中世交易の旅: 特産物と文化コードのルーツである
- ・世界宗教が伝わる現場
- ・ロールプレイ
- ・全体のダイナミズム: まとめ

V. 悲劇と偉大な仕事の分かれ道

- ・マクロとミクロから見る第二次世界大戦: 日本の立ち位置
- ・アンネ・フランクの日記
- ・戦争の形の変化
- ・第2次大戦後70年: 悲劇と偉大な仕事、明暗2枚のパネルづくり

屋外活動

VI. 地球村の新しいルールをつくろう

- ・過去のリーダーのルールづくりの現場へ
- ・新しいルールづくり
- ・スピーチの練習

3月23日(月)

VII. ヤングサミットの開催

- ・役割分担と準備
- ・ヤングサミットの開催

全体の振り返りとキーポイント

14時頃出発、17時頃学校到着

(以上)

講演会「第3回海外留学・海外大学進学に関する基礎知識」

別紙でもお知らせしましたように、「第3回海外留学・海外大学進学に関する基礎知識」の講演会を下記のように開催致します。今回は、教育改革の動向にも言及致しますので、是非お越し下さい。申込用紙は海城学園のホームページからもダウンロードできます。

開催日時	2月21日(土)	午後1時より3時頃まで
場所	本校講堂	
	上履きのご用意と履き物の管理をお願い致します。	
内容	1. 海城学園の留学制度について 2. 海外大学進学の魅力 3. 大学入試改革と海外大学進学に必要な力 4. 海外大学進学にはどのような準備が必要か 5. 質疑	
講師	有田忠史	
	早稲田塾大崎品川校責任者	
	1998年海城高校卒業、ICU教養学部、立教大学大学院文学研究科修士課程修了。	
	パリ第10大学 Master2 比較文学科に一年間留学。	
	RCA 海外留学アドバイザー資格取得	